

# 緑の相談所だより

-第54号-

秋号 1998. 10. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

## 多肉植物の楽しみ方

日時 10月11日(日)

午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所

相談員 本郷 仁

## 洋らんの室内管理

日時 10月25日(日)

午後1:30~3:30

講師 旭川らん友会

会長 笠原 幸三さん

## 講習会

## バラの楽しみ方

日時 11月8日(日)

午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所

相談員 佐野 元雄

## 初心者のための園芸講座

日時 11月22日(日)

午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所

相談員 本郷 仁

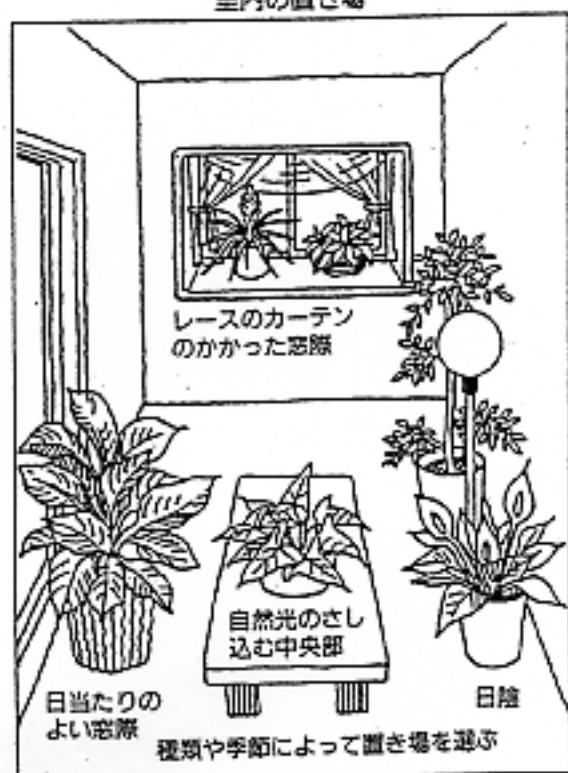
◆用土、水やり、肥料の管理

☆いずれも定員 50名 参加料は無料☆

お申し込み・お問い合わせは旭川市緑の相談所 ☎65-5553へ

# 観葉植物の置き場所と温度

室内の置き場



## ◇光線を好む種類

アイビー、オリヅルラン、ガジュマル、  
 コーヒーノキ、ゴムノキ、サンセベリア、  
 シェフレラ、ドラセナ、パキラ、  
 フェニックス、ベンジャミンゴムノキ、  
 ユッカほか

## ◇半日陰を好む種類

アジアタム、アンスリウム、  
 カラジウム、カンノンチク、シュロチク、  
 コルジリネ、スパシフィラム、  
 ディフェンバキア、プライダルパール、  
 モンステラ、ポトスほか

◎寒さに強いもの（最低越冬温度 3～5℃）  
 カンノンチク、オリヅルラン、シェフレラ、  
 ヘデラほか



○寒さにやや強いもの（最低越冬温度 6～10℃）  
 シュロチク、コンシンネ、サンセベリア、  
 モンステラ、カラテア、バキスタキスほか



△寒さに弱いもの（最低越冬温度 11～15℃）  
 アンスリウム、スパシフィラム、  
 ディブラデニアほか



▲寒さに非常に弱いもの（最低越冬温度 16℃以上）  
 カラジウム、ベコニア、クロトン、  
 コーヒーノキほか



# 秋の庭仕事 — 来年のために —

今年の春から秋まで楽しませてくれた種々の庭木や花々、野菜、果樹等の管理作業もいよいよ冬休みに入ります、来年もまた今年以上に頑張って元気に生育するよう、反省をこめて秋の内から必要な準備をしておきましょう。

## ○ 土作り

花壇や野菜畑等枯れた株を根こそぎ、また雑草の根なども拾い集め畑の表面を清掃した後深く耕します。この時堆肥分と少量の石灰を施し土とよく混ぜ合わせておきますと来春には良い土になっております。

## ○ 病虫害防除

今年も庭木のカイガラムシ、果樹のシンクイムシ、ミバエ、毛虫、その他アブラムシやダニ等種々の害虫、またウドンコ病、タンソ病等の防除に苦勞された例が多いと思われます。これら病虫害の多くは蛹や卵また胞子の形で越冬し来春暖かくなる頃からまた活動を始め被害を大きくしますので秋のうちに退治しておきますと来年の被害もかなり軽減されます。

越冬の準備をした病虫害は落ち葉の下、樹皮の割れ目、枯れた雑草等に潜んでおりますので、落葉等は丁寧に集め土に埋めるか堆肥として積んでおきます更に石灰硫黄合剤を樹木の幹、地面に散布しておきますと効果があります。(普通の農薬は越冬状態の病虫害に対しては効き目がありません)

## ○ 施肥

庭木や果樹など土を耕せない植物に有機質肥料を施す場合、根が休んでいる春早くか秋の内に、木から少し離して根は多少切れますが周囲を深く掘り、油粕、米ぬか等を施し土と良く混ぜ合わせますと、土の改良にもなり効き目があります。

化成肥料の場合は来春葉が伸び始め頃が適当ですが、この時は耕すことが出来きませんので土の表面にまくことになります。

## ○ 剪定

庭木類、果樹などの剪定適期は秋の落葉後から春の芽だし前までですが、根の動きの早いモミジ、ブドウ等は秋のうちに済ませておく安全です。来春の剪定が少しでも遅れますと切り口から樹液が吹き出し樹勢の回復に時間がかかり、枯れこむ場合もありますので注意してください。

## ○ 移植・定植

宿根草等は秋の内に移植を済ましておく来春の管理が非常に楽になります特にポタンやシャクヤクは春の移植は危険です。

移植は地上部が枯れるか落葉してから、土を深く起し堆肥分等を施しよく馴染ませた後植込みます。土が深く凍結するような場所であれば地表にわら屑等で保護します。

## 10月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・強い霜がきたら春植え球根の掘り上げと貯蔵、夏花壇の後始末、石灰を撒き堆肥入れて整地しておく。秋植えの球根で植え忘れていたものは出来るだけ早く植え込む。寒さに弱い宿根の花壇材料は繁殖用親株を室内へ取り込んで管理する。
- \* 鉢花・・・花の咲いている鉢物は小春日和の日中、ベランダ、玄関先などへ出して日光浴。下旬には冬眠に入る鉢物は耐寒性に応じて冬囲いをする。室内で越冬・鑑賞する鉢物は早く室内の環境に馴らすこと。開花を続ける種類を除いては、総じて低めの温度で管理する。葉形サボテンの仲間は水やりを控える。短日条件で花芽を分化する種類は、室内の照明に当てる時間に注意する。クンシランは徐々に低温に馴らしていく。
- \* 観葉植物・・・殆ど終日室内で管理する時期です。室内の暖房はまだ本格的ではなく室温は低めであり湿度は不足するので管理に注意する。光線は極端に少なくならない限り心配はない。本格的に暖房が入ったら室温の高過ぎに注意する。日中22℃、夜間10℃位が理想的。夜の温度が高すぎても植物は疲れます。
- \* 洋蘭・・・全て室内で管理する。デンドロビュームは涼しく乾かし気味に、シンビジュームで開花中の秋咲き種は低温で花が長持ちする。蕾の出始めている早咲き種、まだ蕾の見えない遅咲き種も16～18℃で管理すると良い。蕾の出ている株は直射日光を避ける。カトレアなど開花中の株は普通の灌水、休眠中の株は乾かし気味に管理。総じて8℃以下で長時間過ごさせると衰弱する種が多い。
- \* 盆栽・・・実物、紅葉する雑木類は鑑賞時期。涼しく湿度の高い場所で長持ちします。落葉した雑木類、松柏類は休眠の準備にはいる。実物で来年実をつけたいものは植え替えの時期、冬囲いは丁寧。
- \* 庭木・果樹・・・落葉樹では葉が落ち始める下旬には木の周りを清掃し落ち葉は集めて積んで置く。下旬には菫、薔、楓など冬囲いのための準備に入る。リンゴ、ナシなどの追肥はカリ肥料を主体に上旬に施す。落ち葉の整理をして病害虫の発生を予防する。

## 11月の園芸作業

- \* 露地・花壇・・・菊を残して殆どの草花は冬枯れです。雪の来ないうちに枯れた茎葉の始末をし、堆肥、石灰を散布し来春の作業に備えます。春花壇のパンジーやデージーの苗は雪の来ないうちに薬剤の散布をする。
- \* 鉢花・・・耐寒性のある山草・花木などの鉢物は雪の来ないうちに外で冬囲いをする。室内で冬を越す開花中の鉢物は、できるだけ日光に当てる。暖房が入る時期なので、日中と夜間の温度差は10℃位を目安に、最高温度は23℃を超えないよう置き場所を選ぶ。低温で花芽の分化をするクンシランは出来るだけ涼しく、ポインセチアは短日、カランコエ、ロケアなどは低温と短日・乾燥が花芽分化の条件なので前の月と同様に付き合い方に注意します。ツバキ、ウメも芽が動かないように寒い場所に取り込む。シクラメンも出回り始めます。いきなり暖かい所へ置くとう部屋の環境に馴れないうちに花を痛めてしまいます。正月に花を見るスイセンなどの春咲き球根類は冷蔵庫から出して鉢植えにします。15℃程度の低温で光をよく当てながら管理します。
- \* 観葉植物・・・来春まで暖房の効いた場所に置かれます。一番の大敵は部屋の乾燥した空気です。室内の湿度に上手に馴らし、10日に一度は筆かガーゼなどで葉を拭いてやり時々霧を吹き付けてやります。種類に応じて日光を加減した置き場所を選んでやります。低めの温度と乾かし加減の水やりがコツ。
- \* 洋蘭・・・温室やハウス、室内での管理です。開花する種類も多くなってきますが、花芽の出来始めている株や蕾の発育中の株は、環境の急激な変化を出来るだけ避けるようにします。特に温度の条件が急激に変化すると花が咲けないことがあるので注意。デンドロビュームは中、下旬まで水やりを控え低温で管理。シンビジュームは日中20℃、夜間10℃位で蕾の発育がよくなります。カトレア、ファレノプシス、バンダは夜間の低温に注意する。
- \* 盆栽・・・雪の来る頃から冬囲いをします。寒さに弱い種類は室や穴の中、強い種類は鉢を土中に埋めるくらいで雪の中で眠らせます。枝折れの心配があるものは支柱を立てるなどして保護します。穴の中での冬越しは雪解け水が溜まらないよう配慮する。ネズミの害があるので要注意。
- \* 庭木・果樹・・・木の大きさ、性質、耐寒性等に応じて支柱、枝吊り、菫巻き、地面に倒す、土中に囲う等の冬越しの作業をします。いずれも雪の来る前に作業を済ませると楽です。ブドウの剪定・蔓下ろしは根雪になる直前頃が適期です。カエデ類やシラカバ、ニレなどの早春に活動を始める庭木の剪定もこの時期にします。